2016 年 12 月 9 日
環境社会配慮助言委員会委員長　村山　武彦
担当ワーキンググループ主査　鋤柄　直純

ベトナム国バックアイ揚水発電所建設事業
（協力準備調査（有償））
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

・日時：2016 年 10 月 31 日（月）13:58〜16:44
・場所：JICA 本部　（1 階 111 会議室）
・ワーキンググループ委員：石田委員、清水谷委員、鋤柄委員、谷本委員、原嶋委員
・議題：ベトナム国バックアイ揚水発電所建設事業準備調査に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
・配付資料：
1) ベトナム国バックアイ揚水発電所建設事業準備調査報告書に係る DFR 案事前配布資料
2) 環境影響評価報告書(揚水発電所)
3) 環境影響評価報告書(送電線)
4) スコーピング案への助言対応表
・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010 年 4 月）

全体会合（第 75 回委員会）

・日時：2016 年 12 月 9 日（金）14:30〜16:53
・場所：JICA 本部　（1 階 111・112 連結会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

環境配慮

1．夜間の騒音振動は、現状においても環境基準値を超えている。さらに、本事業の供用開始後に、揚水などが夜間に行われると騒音振動の増大が懸念される。この影響について FR に記述すること。

2．上部調整池予定地における生態系への影響については、希少であるまたは絶滅が危惧される種類だけについて言及するのではなく、その他の生物に与える影響（例：個体数の減少）も併せて FR に記述すること。

3．アクセス道路の保護林への影響に関して、道路開設に伴う林縁樹木の枯死及び枯死に伴う森林生態系の衰退を軽減するための対策を検討し、その内容を FR に記述すること。

社会配慮

4．本事業は地域雇用への貢献が強調されている。しかし、少数民族が多く、自給自足に依存する被影響住民には「工事中の雇用機会」しか与えられていない。長期的には生計手段の喪失に伴う困窮の恐れが指摘されている。「供用開始後の生計手段」の確保のための措置を提案するとともに、その効果的な実施を実施機関に働きかけること。

5．少数民族の生活様式、慣習的な土地利用及び伝統的儀式の維持・継承に配慮した事業の実施に留意するということを FR に明記すること。

6．水質調査の結果、ヒ素や大腸菌、大腸菌群類が基準値を超えている調査地点があるため、地域住民の健康・保健・衛生状況を改善するためにも、このような水質汚濁の実情を地域住民にフィードバックすることを提案として FR に記述すること。

7．アクセス道路の安全対策に関して、安全標識の設置、コントラクタを含む作業従事者に対する安全運転教習の他、特に近隣の児童・生徒の登下校時の工事車両の通行を回避する等、工事業者の利用時間の制限についても検討し、その結果を FR に記述すること。

8．アクセス道路に植樹帯を設置する際に、景観への影響緩和の視点も考慮し、その結果を FR に記述すること。

以上